

## 平成27年度 第4回総合教育会議議事録

日 時：平成28年2月1日（月） 午前11時00分～正午

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井 利克、名張市教育委員会 福田 みゆき委員長、松尾 真由美委員、瀧永 善樹委員、川原 尚子委員、上島 和久教育長

《事務局》企画財政部長 森岡、総合企画政策室長 山下、総合企画政策室 今村

教育委員会事務局次長 高嶋、教育総務室長 内匠、教育総務室副室長 福本

### ○市長あいさつ

おはようございます。お忙しい中、第4回の総合教育会議にご出席いただき、委員の皆さまに御礼申し上げます。

去る1月30日・31日に、教育センターで講演会がございました。30日の講演は、書家としてご活躍いただいております金澤泰子さんと娘の翔子さんが「ダウン症の娘と共に生きて」と題した講演会がございましたが、一流の美術館や大きな寺院、神社等で250回以上個展を開かれており、バランスのある素晴らしい字を書かれ、この方の書を見て泣かれる方も多いそうです。国や自治体の熟度は、そこで生活する障害のある方がいかなる生活をしているか、生きがいある生活をしているのか、それが大きな尺度になると私は思っており、お二人はそんなお手本だと感じております。障害がある子の親にとって、親亡き後がものすごく心配なのですが、翔子さんが3か月前からひとり暮らしを始められ、不意に行っても整理整頓、掃除もなされ、食事もつくと。素晴らしい教育をされてきたのだと思いますが、まさに名張が目指す共生社会も、このような社会であるわけです。

31日の講演は県主催・市共催の「子どもスマイルフォーラム」で、講師が「花まる学習会」の高濱正伸代表でした。10歳までに子どもの将来の生き様などがおおよそ決まっていき、小さい時の成功体験が大変重要というお話しでした。私どもも10歳までのお子さんをお預かりしており、重要な時期をお任せいただいておりますので、より抜かりない対応が必要と思った次第であり、今後とも皆様にはよろしく願いいたしたいと存じます。

本日は、最終案として取りまとめました名張市の教育大綱をご確認いただき、ご意見をいただきまして、公表していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

### ○協議事項

#### 1. 名張市教育大綱（案）について

※ 企画財政部 総合企画政策室より資料説明

（議長）

説明は以上でございますが、ご意見・ご質問等いかがでしょうか。

（教育委員長）

大変良いものができたという感想です。「6 基本方針」の「5 未来への創造」では、“ひとを育て、まちをつかっていく、まちを育てる教育が名張の教育”と締めさせていただき、教育大綱として相応しいものになったと感じています。また、「5 位置付け」の図も、第二次名張市子ども教育ビジョンを中心に5つの計画があり、その上位に総合計画があるという明確な組み立てで、大変良いものになったと思います。

(教育委員)

「5 位置付け」において、方針がはっきり見える表現をいただき、有難いと思います。

(教育委員)

非常に良い案にしてくださいと思います。市民の皆さんや教育関係者への周知、また、十分に活用いただくことが今後の課題と思います。

(教育委員)

本大綱の中で、学術という分野をどのように扱うのか、事務局のお考えをお聞かせいただきたいと思っています。

(事務局)

前回の総合教育会議でご協議いただいた内容を踏まえ、あえて学術という文言は入れず、「6 基本方針」の「2 市民文化の創造」の2つ目、“魅力ある新しい名張文化”等の表現に含んでいると考えているところです。

(議長)

文化の範囲は広く、考え方によっては生活の営みは全て文化とも考えられます。委員がお考えの学術及び文化とはどのようなものでしょうか。

(教育委員)

学術の定義は様々あると思いますが、ひとつには、より専門的な学問分野としての意味があると考えます。その場合、市の教育大綱では、市民向けにならない可能性もあるでしょう。しかし、現在、名張カレッジで、非常に高度で専門的な文化にも通ずる学術活動を実践されていることから、「6 基本方針」の「2 市民文化の創造」の2つ目で、その位置づけがされていることは、理解が可能とは考えます。

学術研究ということで、大学や研究機関等の成果発表や市がその支援を行う等の予定がなければ、専門的で高度な学術に発展する可能性のある“市民の学ぶ機会や活動”の推進も該当すると思いますし、そのように解釈することも可能と思います。

(議長)

一自治体の指針に、学術という文言を入れても良いのでしょうか。

(教育委員)

国の考えをどのように受け止めるかによると思います。

(議長)

過去、沢田敏男先生が、学術振興会の会長をなさっていました。学術とは、まさにそのような分野を目指す思いで書かれているのでしょうか。

(教育委員)

例えば、スポーツ振興の計画に、トップアスリートのスキルやパフォーマンスを子どもや市民の方に見ていただくことで、スポーツに対する興味や関心を持たせるといったこと、また、ノーベル賞を受賞された当地にゆかりのある方がいらっしゃれば、その方をお招きして講演会を開催するという活動も、ひとつの学術活動になると思います。

(議長)

沢田先生は文化勲章を受章し、その際に講演会を開催しました。理想として、そのような考えも織り込んでいるとしましょう。

(教育委員)

学術という意味は、先程事務局より説明のあった「2 市民文化の創造」の2つ目に含まれていると考えており、非常に大きなものになる印象を受けるため、学術の文言まで入れなくても良いと思います。

(議長)

学術という文言を入れることで、深くなってしまう。

(教育委員)

そのため、心としては持っていますが、学術という文言まで入れなくても良いと思います。

(議長)

教育の理想として持っておく必要はありますが、市の大綱としては、どうでしょうか。

(教育委員長)

より専門的な学問分野として考えると、そのような方が出てこられた時には、“名張の新しい文化の創造”として支援し、育ててもらいたいと思います。先程も意見がありましたが、「2 市民文化の創造」の2つ目に、学術、専門的な学問分野も支援していくと、創造していくということも含まれていると思います。

(教育長)

「1 はじめに」の中で、“学術及び文化の振興”と入れておくことで、本市でも深く考えていると解釈できると思います。初めて策定するものであり、最初から完全な大綱を策定することは困難ですが、数年先を見越した中で策定し、市民の皆さんに分かりやすい、また、本市が教育推進都市を目指しているその強い熱い思いが、表れたものにしたいと思っています。

議論を重ね、皆さんの思いを感じ、文言等を修正いただきました。現時点としてはこの内容で、新しい方向を市民の皆さんに理解いただいて、これに向かって、市と教育委員会でやっていくという意気込みを伝えていければ良いのかなと思っています。

(議長)

よろしいでしょうか。

(教育長)

市民文化だけではなく、もう少し広義な文化も捉えてもらうという考えです。大衆的なものだけに留まらず、より質の高いものも含まれていると説明していけば良いと思っています。理想と、かけ離れていてもいけませんし、低くてもいけませんし、その兼ね合いは非常に難しいと思います。

(教育委員長)

確認したいのですが、「6 基本方針」の「5 未来への創造」で、平仮名の括弧書きで「なばり」としていることには、何か意味があるのでしょうか。「2 市民文化の創造」では、“新しい名張文化”と漢字表記になっています。

(教育委員)

「4 生きる力を育む教育の創造」では、括弧がなく、平仮名表記となっています。

(事務局)

「5 未来への創造」では、括弧書きの平仮名がイメージとして相応しいと感じ、そのように表記しました。

(議長)

いかがでしょうか。

(教育委員)

括弧書きの平仮名で、強調させておく方が良いと思います。

(教育委員)

以前は、“まち”と表現されていたものを、あえて「なばり」と表現いただき、より愛着が持てるようなイメージ持ちました。

(教育委員)

「4 生きる力を育む教育の創造」で、初めて、“なばり”と平仮名が出ています。「5 未来への創造」と合わせて括弧書きの方が、愛着や思いが表れて良いと感じます。「2 市民文化の創造」の“新しい名張文化”につきましては、“名張文化”というひとつの言葉となっており、そのままが良いと思います。

(議長)

「なばり」については、そのように修正をお願いします。

それから、「2 市民文化の創造」で、なぜ“豊かな地域資源”から、“多様な文化資源”に変更になったのですか。地域資源には人材も入りますが、文化資源と地域資源の違いをどのように解釈し変更したのでしょうか。なぜ、“地域資源を活用する”等の表現としなかったのですか。

(事務局)

より幅の広い“地域資源”ではなく、「2 市民文化の創造」という項目に合わせるかたちで、“文化資源”に見直しました。

(議長)

いかがでしょうか。

(教育委員長)

”文化資源”に、人材の要素が入っていることは想像し難いですが、伝統文化という意味合いを入れるため、このような変更がなされたのでしょうか。

(事務局)

そうです。”文化や芸能等”と改めたことなどから見直したところです。ただ、本日も協議いただいて、”地域資源”の方が相応しいということでしたら、修正いたします。

(教育長)

教育大綱であるため、まちづくりから少し観点を換え、“文化資源”に変更されたと思います。

(教育委員)

「2 市民文化の創造」は、文化という項目であることから、“地域資源”から“文化資源”に見直したと思いました。人材については、「5 未来への創造」で語られていると解釈し、抵抗なく読ませていただきました。

(教育委員長)

“文化資源”と“地域資源”の大きな違いは何でしょうか。

(事務局)

“地域資源”は、幅広く市内のあらゆる資源と考えています。また、“文化資源”は、文化の範囲に限定されるものと考えております。

(教育長)

一般的な感覚として、“文化資源”と“地域資源”の捉え方は若干異なると思いますが、どちらも貴重な考え方だと思いますので、“豊かな地域資源と多様な文化資源を活用し”と併記しても良いと思います。市民文化を創造していく中で、地域や人など色々なもの、大事なものがあると感じています。

(教育委員)

“文化資源”には、人が為した成果、人の営みによるものを想像しますが、“地域資源”には、自然環境も含め、豊かな名張市の資源も含まれ、なお良いのではないかと思います。そういう意味では教育長がおっしゃったような併記により、人や自然も活かし、そして人の営みの文化といった成果も活かしてという側面が入り、より分かりやすく、また、資源がたくさんあるという強調にもなって良いのではないかと思います。

(議長)

“地域資源”と“文化資源”は重なる部分も多いのですが、“地域資源”は“文化資源”に留まることなく、農地・農村・農業、景観、自然環境など、地域にある資源が全て含まれます。それらを活かして、誇り、愛着を感じられるふるさとを創造することになるのだらうと思います。“地域資源”だけとするか、併記するか、いかがでしょうか。

(教育委員長)

併記でも良いと思うのですが、その場合、“豊かな地域資源と多様な文化資源”の前にくる表現はいかがでしょうか。

(教育長)

併記ならば、そのままつけても良いと思います。

(議長)

それでは、併記としましょう。

(事務局)

”豊かな地域資源と多様な文化資源を活用し”という内容に改めます。

(議長)

他にどうですか。

(教育委員)

「6 基本方針」の「3 豊かな心と健やかな体の創造」で、旧案では3つ目に”なばりの元気と活力を全国に発信し”という文言がありました。これまでの案では、名張市の活動を全国に発信していく、発信型の文化形成も目指すと受け取っていましたが、そのような趣旨は、本日の改正案ではどこに引き継がれているのでしょうか。

(事務局)

これまでのご意見を踏まえ、全体的に教育大綱の要素を強めた結果、引き継ぐというよりも、大綱においては削除させていただきました。情報発信につきましては、総合計画に委ねているという考え方です。

(教育委員)

分かりました。

(教育長)

新しい総合教育会議の中で、名張市の教育大綱の策定を進めていただきました。完全ではないと思いますが、議会が終わった段階で、広報なばり等にも掲載いただき、市民の皆さんに周知いただきたいと思います。また、教育委員会としても、あらゆる機会を通して発信していきたいと思っています。

(議長)

他にございませんか。ないようでしたら、本日いただいた意見を反映し、まとめさせていただきますと思います。

## ○その他

(議長)

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

今後のスケジュールですが、庁内報告後、3月議会の施政方針の中で、教育大綱も公表していく考えです。また、平成27年度の総合教育会議につきましては、本日を持って終了させていただきたいと考えており、平成28年度の開催は現時点では未定でございますが、開催の折には、教育委員会事務局とも協議させていただき、委員の皆さんにご案内をさせていただきたいと考えております。事務局からは以上です。

(議長)

委員の皆さん、いかがでしょうか。

(教育委員長)

本大綱は、教育委員会での5つの計画をもって進めていきますが、その中でも、子どもたちの安心・安全を守っていくため、また、教育を進めていくため、どうしてもやらなければならないことも出てまいります。そのあたりは市長ともご審議させていただきながら、前に進めていきたいと思っています。市民の皆さんからは、給食や空調の件など色々なお声もいただいていることから、的確に対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

子育て世代が名張へ来ていただく、この流れを加速化していくには、教育は大きなファクターになりますので、大いにアピールしていきたいと思っています。

(教育長)

名張の人口減少を少しでも食い止めるため、教育の取組を進める必要があると思っていますが、現実問題としまして、来年度の新1年生の様子は、以前と異なる状況も起こってきています。具体には、特別支援学級に入る子どもたちは、これまで新1年生では27～28人だったのですが、今年の春は40人程度が見込まれています。このことは、一定、教育の水準の確保、行き届いた教育をするためにも必要なことが起こってきますので、バックアップをお願いしたいと思います。今まで以上に市長をはじめ、市長部局と教育委員会が密に連携を取り、子どもたちの未来のために、そして教育推進都市を目指して頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

発達支援センターをつくり、名張で子育てしたいと考える保護者も多くなり、その子どもたちが小学校に入学することとなります。名張では、医療職、福祉職、教育職等が連携・協働して、しっかりサポートしていく体制を整え、ウェルカムしています。そのため、小学校入学を迎える段階では、教職員の加配が必要となります。私もお願いに行きますが、教育長からもお願いに行ってもらいたいと思います。

(教育長)

加配については全国で500人程度となりました。47都道府県あり、三重県にどれだけ配置されるか、また名張にどれだけ配置されるか、1人配置されれば良い方かもしれません。小中一貫教育やコミュニティスクールの取組も進めていますので、配慮していただきたいと思っています。

(議長)

他の自治体とは違う特殊事情があることも加配の要望に添えてもらいたいと思います。早期発見、早期支援により、充分社会参加していける子どもたちが多いので、これからもきっちりサポートしていく必要があると考えています。

(教育長)

地方創生と絡めながら、地方が特色ある取組を進めることで、支援が必要であることを伝えていきたいと思っています。

(議長)

これで第4回の総合教育会議を終わります。ありがとうございました。